

音楽科学習指導案

指導者 松前 良昌

日時 平成30年11月17日(土) 第3校時(13:15~14:05)

年組 中学校第3学年2組 計40名(男子18名,女子22名)

場所 中学校音楽教室

題材 豊かな合唱表現を自分たちで工夫しよう!

混声合唱とピアノのための曲集「初心のうた」より『IV. でなおすうた』

木島 始/詩, 信長貴富/作曲, 松前良昌/校内用編曲

題材について

本題材では、歌詞の内容や曲想を理解し味わうことによって、生徒自らが自己のイメージや感情を意識し、協働して曲にふさわしい合唱表現を工夫していくことをねらいとしている。教材の“でなおすうた”は混声合唱とピアノのための曲集『初心のうた』の第4曲である。作曲に際して信長貴富氏は、「全編を貫くピアノのオスティナートと、骨太な旋律線による曲。光が差す方へ音楽は前向きに展開するが、一転、終結部『…はずだった』という詩句と突き刺さるようなピアノの音型によって、大きな疑問符が投げかけられる。全5曲の重心を成す作品。」と楽譜巻頭に綴っている。「この国が最後に行った戦争が終わったとき、この国の国民は、野戦の地から・被爆の地から・疎開の地から・決意の死から・長かったツンドラから・軍靴の駆け足から・無理強いされた挙手の礼から・全くの無我夢中から…わたしたちは帰還した“はずだった”。今また、いつの間にか、そこへ向かっているのではないのか?」…そう歌っている。他の曲も含め、さまざまな社会矛盾を前にして、ひるまず冷静に真実を見つめ未来を切り開く若い意思にエールを送る木島始氏の5つの詩をテキストとして作曲されている。楽曲は、中学3年生がクラス合唱で歌うには、技能的に容易とは言えない。しかしながら、詩は生徒に深く読み取って自分たちの未来について考えるよう問いかけている。自分たちで解釈しメッセージを発信しながら歌唱表現する限界に挑む価値のある作品である。

本校の生徒は、音楽に興味・関心をもっている生徒が多い。9月から実施した校内合唱コンクールの練習では、授業で全体練習の時間を多く確保できるように、生徒自ら放課後等にパート練習をするなど、意欲的かつ計画的・効率的に取り組んでいる。また、縦割り交流では、1年生を指導して下級生の模範となっている。また授業においては、1年生の時は教師の細かい指示を待っている状況であったが、3年生になってからはリーダーを中心に自分たちで合唱表現の工夫を考えるようになってきており、教師が助言をしなくとも自分たちで表現を工夫する基礎は身につけていると考えている。指導に対しての反応もよく、自ら考えて表現しようとしたり、自分で詩の意味や曲の構成について調べたりする生徒もいる。本校では、個に応じた音域、バランスなどを考慮するとともに、より豊かな音の重なりをめざして第2学年から混声四部合唱に取り組んでいる。その結果、合唱にふさわしい発声が次第に身につけており、豊かな響きをもった質の高い演奏となってきている。しかし、技能面の向上の一方で、楽曲のどの部分でどの技能を活かして合唱表現を工夫するかを主体的に考えることは、十分ではない。また、自分がどのような発声や表情をしているかをなかなか自覚できない生徒もいる。

合唱表現では、作品に込められた作詩・作曲者の思いを汲み取り、解釈し、歌声で表すこと、つまり思考・判断し、表現することが求められる。その際に、身につけた技能、つまり“術”をどう活かすかを考え、どれ

を選択するか判断し、よりよい表現をするために実際に利用できることが必要となる。そこで、合唱スキルの効果的な指導のために、練習ではお互いアドバイスしやすい雰囲気をつくったり、比喩的表現をもちいてわかりやすい練習の“術”を提示したりしてみることにした。よりよい表現をめざして、リーダーを中心として生徒が主体的に“術”を活用して合唱表現できるよう指導していきたい。また、練習方法や形態を工夫することにより、生徒の思考力や判断力が求められる場面を増やし、高めさせていきたい。さらには、他のパートとのかかわりを意識させるとともに、声部の役割や全体の響きの調和を感じ取らせ、協働的な学びの中で“術”を活用して曲にふさわしい豊かな表現が工夫できるよう指導したい。

指導目標

1. 生徒自ら発声や音程・リズムなどの音楽的スキルを活用して合唱表現できるようにする。
2. 曲想や声部の役割や全体の響きを感じ取らせ、表現を工夫できるようにする。

指導計画（全9時間）

1. パート別および全体練習 4時間
2. 全体練習 3時間
3. まとめの表現 2時間（本時はその2時間目）

本時の目標

1. 自分の声の状態を理解し、音程・リズムなどの音楽的スキルを活用して歌唱することができる。
2. 曲想や声部の役割や全体の響きの調和を感じながら、表現を工夫して歌唱することができる。

学びを豊かにするための手立て

歌唱指導において、比喩的表現等をもちいてわかりやすい練習の“術”を提示することにより、効果的に音楽的スキルを高めることができると考えている。また、練習方法や形態を工夫して活発に意見交換ができる協働的な学びの場をもつことで、“術”を活用しながら合唱を豊かに表現させることができると考えている。

学習の展開

学 習 活 動 と 内 容	指 導 上 の 留 意 点（◆評価）
<p>1. パート練習</p> <p><input type="checkbox"/>発声や音程・リズムなどに注意して、パート別に活動する。</p> <p><input type="checkbox"/>パートリーダーが中心となって活動する。</p>	<p>○表現を工夫する“術”を助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腹式呼吸を意識できているか。 ・息の流れがしっかり意識できているか。 ・出だしの音からきちんと歌っているか。 ・発声法を意識して歌っているか。 ・口の開け方などは適切か。 ・発音を適切にしようとしているか。 ・音程を正しく歌おうとしているか。 ・リズムを正しく歌おうとしているか。 ・強弱などを考えて歌おうとしているか。など <p>◆自分の声の状態を理解しながら、音楽的スキルを活かして歌うことができるか。</p> <p style="text-align: right;">【音楽表現の技能】</p>

<p>2. 全体練習</p> <p>□合わせはじめのため、教師が指揮をする。</p> <p>□発声や音程・リズムなどに注意して歌う。</p> <p>□お互いの演奏を聴き合い、曲にふさわしい表現になっているかどうかを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ローテーション形式 など <p>□歌詞の内容をもとに、協働して曲想に合った合唱表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指揮の指示 ・パートごとに生徒個々の曲のイメージなどを意見交換 <p style="text-align: right;">など</p> <p>□部分ごとに曲想の変化をつけて歌う。</p>	<p>○演奏の状態に応じて音楽的技能を活用した“術”を助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸法や発声法に気をつけているか。 ・音程、リズム、強弱などに気をつけているか。 ・子音の発音を工夫しようとしているか。 ・パートの声を揃えることを意識しているか。 ・他のパートを聴いて、ハーモニーやバランスをよくしようとしているか。 ・言葉の意味を伝えようとしているか。 ・曲想を考えて歌おうとしているか。 ・聴衆を意識して歌おうとしているか。 など <p>○生徒の状況を常に把握することを意識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめは、あえて抽象的に指示して、自分でどう工夫するかを考えさせ、徐々にわかりやすく簡潔で具体的な指示をする。 ・生徒に最も適切な指示を選択する。 <p>◆歌詞の内容や曲想を考えながら、表現を工夫して歌唱することができるか。</p> <p style="text-align: right;">【音楽表現の創意工夫】</p>
<p>3. まとめ</p> <p>□通して歌う。</p>	<p>◆自ら考えた表現の工夫を活かして歌唱することができるか。</p> <p style="text-align: right;">【音楽表現の創意工夫】</p>

参考文献 文部科学省「中学校学習指導要領」, 2017.

文部科学省「中学校学習指導要領解説 音楽編」, 2017.

松前良昌・天野秀樹「協働的問題解決授業を実現する手立てについての事例研究－音楽科における授業デザインの提案－」広島大学附属東雲中学校, 2017.

松前良昌・濱本恵康・三村真弓「生徒が主体的・協働的に学ぶ音楽科授業の実践－タブレット端末を利用したパート練習の試み－」広島大学附属東雲中学校, 2016.

松前良昌・濱本恵康・三村真弓「基礎的な音楽的技能の効果的な指導法－3年間継続した発声指導の効果の検証－」広島大学附属東雲中学校, 2015.

三村真弓・松前良昌他『中学校・高等学校音楽科における聴取力育成プログラム開発のための基礎的研究－聴取力に着目した音楽科学力調査をとおして－』学部・附属学校共同研究紀要No. 39, 広島大学学部・附属学校共同研究機構, 2010.

参考資料 過去3年間の校内合唱コンクール 課題曲・各クラス自由曲

平成30(2018)年度

課題曲	虹色の明日 (1年:混声三部, 2・3年:混声四部, 3組:斉唱)	田中理恵子 作詩・作曲
1年1組	時の旅人 深田じゅんこ 作詞 / 橋本祥路 作曲	
1年2組	混声合唱のための唱歌4ドレー「ふるさとの四季」より ~故郷・朧月夜・われは海の子・村祭・雪~ 文部省唱歌〔高野辰之作詩/岡野貞一作曲(一部)〕/源田俊一郎 編曲	
2年1組	混声合唱とピアノのための「かなでるからだ」より 2. 膝 3. 骨	木島 始 作詩 / 信長貴富 作曲
2年2組	混声合唱組曲「海鳥の詩」より 2 エトピリカ 4 北の海鳥	更科源蔵 作詩 / 広瀬量平 作曲
1・2・3年3組	涙そうそう 森山良子 作詞 / BIGIN 作曲	
3年1組	Candlelight Carol (ともしびのキャロル) Lamentations of Jeremiah (エレミアの哀歌)	John Rutter 作詞・作曲 Z. Randall Stroope 作曲
3年2組	混声合唱とピアノのための曲集「初心のうた」より V. 泉のうた〔抜粋〕 IV. でなおすうた 木島 始 作詩 / 信長貴富 作曲	

平成29(2017)年度

課題曲	大切なもの (1年:混声三部, 2・3年:混声四部, 3組:斉唱)	山崎朋子 作詞・作曲
1年1組	合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」より 1. サーカスのうた 5. 動物を殺せ 10. ぞうれっしゃよはしれ 小出隆司 原作 / 清水則雄 作詞 / 藤村記一郎 作曲	
1年2組	「11ぴきのネコ」合唱版より 十一ぴきのネコが旅に出た 魚見えたか節 魚の子守唄 ノラネコ天国ソング 井上ひさし 作詞 / 青島広志 作曲	
2年1組	混声合唱組曲「友よ、君の歌を」より 5. 木よ、風よ、星よ	みなづきみのり 作詩 / 千原英喜 作曲
2年2組	混声合唱曲 夜明けから日暮れまで	和合亮一 作詩 / 信長貴富 作曲
1・2・3年3組	COSMOS	ミマス 作詞・作曲 / 富澤 裕 編曲
3年1組	混声合唱とピアノのための「祈りの虹」より IV. “ヒロシマにかける虹”	津田定雄 作詩 / 新実徳英 作曲
3年2組	混声合唱とピアノのための「くちびるに歌を」より 4. くちびるに歌を—Hab' ein Lied auf den Lippen— Cäsar Fleischlen 作詩 / 信長貴富 訳・作曲	

平成28(2016)年度

課題曲	虹をこえて (1年:混声三部, 2・3年:混声四部, 3組:斉唱)	人見敬子 作詩・作曲
1年1組	青葉の歌	小森香子 作詞 / 熊谷賢一 作曲
1年2組	消えた八月	栄谷温子 作詞 / 黒沢吉徳 作曲
2年1組	混声合唱曲集「そのひとがうたうとき」より そのひとがうたうとき	谷川俊太郎 作詩 / 松下 耕 作曲
2年2組	混声合唱とピアノのための「新しい歌」より 新しい歌 García Lorca 作詩 / 長谷川四郎 訳詩 / 信長貴富 作曲	
1・2・3年3組	ふるさと	小山薫堂 作詞 / youth case 作曲 / 松前良昌 編曲
3年1組	混声合唱曲「季節へのまなざし」より 4.ゆめみる	谷川俊太郎 作詩 / 信長貴富 作曲
3年2組	MASS (ミサ曲) より SANCTUS (聖なるかな)	ミサ典礼文 / Steve Dobrogosz 作曲

※ 各クラスの課題曲・自由曲は、生徒の実態に合わせ、授業者が校内利用のために編曲している部分があります。